

群馬県立藤岡特別支援学校 学校評価一覽表①(令和4年度版)

(様式1)

羅針盤			担当分掌	方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	PTAが関連する総会や事業に参加した保護者の95%以上が満足している。	渉外部	新型コロナウイルス感染症へ対応しつつ、親睦を深めたり、研修等の場を提供したりするなど、保護者のニーズに沿った事業を実施していく。	/	a(49.3%) b(49.3%)	達成度A:引き続き保護者のニーズをよく調査し、協力して事業を行っていく。	/	a(51.6%) b(48.4%)	達成度A:PTAに関する満足度は向上しているため、次年度に向けwithコロナの活動を工夫していく。
		学級・学級便りやWebページ等から「子どもの学習の様子がよく分かる」と保護者の95%以上が答えている。	教務部 各学級	各便りやWebページの記事等に、個人情報に留意しながら学習の目的や具体的な取組などを入れて分かりやすく伝える。	a(41.7%) b(58.3%)	a(53.4%) b(42.5%)	自己評価達成度B、外部評価達成度A:教師が手間をかけず効率的に伝える方法を研究していく。	a(47.4%) b(50.0%)	a(48.4%) b(50.0%)	自己評価達成度B、外部評価達成度B:カラーでのお便りデータの配布等、業務改善と共に研究していく。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	いじめの認知の仕方について保護者の90%以上が理解している。	生徒指導部	PTA実行委員会や授業参観などで学校いじめ防止基本方針と関連資料を配付・説明したり、動画を配信したりして説明する。	/	a(46.6%) b(49.3%)	達成度B:年々いじめの認知についての理解度は上がっているため、様々な機会伝えていく。	/	a(43.5%) b(51.6%)	達成度B:総合的な認知度としては95%以上なので、引き続き様々な機会伝えていく。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	就学前のケースの相談について、昨年比で30%増加している。	地域支援部	藤岡市と具体的に連携し、就学前の児童で適応に問題があるケース等に対して相談支援や療育支援を積極的に行っていく。	a	/	達成度A:教育相談等に就学希望がない方が増えているため、引き続き積極的に周知等していく。	a	/	達成度A:就学前の相談は昨年度の220件から460件と倍増した。引き続き支援に力を入れていく。
		外部機関等向けの研修を年に5回以上行っている。	地域支援部 研修部	任意の研修希望を集約し、本校職員又は外部人材を講師として研修会を行い、それを外部向けにも公開する。	b	/	達成度B:現在予定されている研修会は4回。多くの参加者が募れるように周知等していく。	a	/	達成度A:外部向けの研修会は4回、校内向けは3回実施することができた。
	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	100%の保護者の参画のもと、個別の指導計画を立案している。	各学級	計画立案の際、保護者の参画を促し、学校と家庭で共通理解のもと指導を行うとともに、評価を連絡帳や通知票で行う。	a(38.9%) b(61.1%)	a(78.1%) b(19.2%)	自己評価達成度B、外部評価達成度A:教師の評価が低いので、自信を持って指導できるようにする。	a(50.0%) b(50.0%)	a(69.4%) b(29.0%)	自己評価達成度A、外部評価達成度A:外部評価が少し低くなったので、後期の見直しを行っていく。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	95%の保護者が「個別の指導計画」の指導内容についてお子さんの実態に合ったものであると答えている。	各学級	月に1回程度個別の指導計画を複数回目で確認し、進捗等に合わせた授業や指導内容を改善・変更していく。	/	a(78.1%) b(19.2%)	達成度A:個々に合った計画であると評価を受けているが、より良い計画となるよう研鑽を積んでいく。	/	a(66.1%) b(32.3%)	達成度A:後期に外部評価の値が下がるので、指導の充実を理解してもらえる取組を研究・実施する。
		校内研修のテーマに沿った授業検討と研修内容の共有を月1回以上行っている。	研修部 各学級	学部で年に1回以上研究授業を行い授業の研究を進めるとともに、雑誌やWebで公開する。	a(25.0%) b(63.9%)	/	達成度B:計画訪問に向け授業研究を進めているので、関係機関等へ公開等できるようにする。	a(28.9%) b(55.3%)	/	達成度B:月1回程度の学部ごとの研修と、各学級の研究授業の限定配信は実施できた。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	学期に2ケース計4回以上を目途にケース会議を行っている。	地域支援部 各学級	学部会や学年会などの機会に、県教委の推奨する方法でケース会議を効率的・継続的に行うことで指導方法の充実・改善をする。	a(27.8%) b(58.3%)	/	達成度B:ケース会議は難しいと感じている職員がいるので、その効果と簡易さを周知していく。	a(26.3%) b(60.5%)	/	達成度B:会議などを増やすのは難しいので、効率的に情報を共有し、協議できる方法を研究していく。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	感染症対策や学校安全について、学校の情報提供や対応に95%以上の保護者が満足している。	保健安全部	感染症の罹患状況や注意喚起について、ホームページなどを活用して周知に努める。緊急な場合にはオクレンジャー等を通して知らせる。	/	a(65.8%) b(32.9%)	達成度A:オクレンジャーによる連絡を活用し切れていない家庭への支援を引き続き行っていく。	/	a(51.6%) b(46.8%)	達成度A:コロナについて、変わらない丁寧な対応を続けていることを、積極的に周知していく。
		コロナ禍における学習活動の可否等について、100%の教師が理解した上で活動している。	保健安全部 各学級	文部科学省や県教育委員会からの最新の資料について全職員に周知し、他者任せでなくお互いに確認しながら活動をする。	a(41.7%) b(52.8%)	/	達成度B:コロナへの対応についての情報量が多すぎるため、ポイントを絞って教諭らに情報を伝える。	a(55.3%) b(44.7%)	/	達成度A:本校Webの機能の「掲示板」や「閲覧」を使って電子データで情報を効果的に周知できた。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	今年度の緊急時対応マニュアルを作成及び配布し、職員に対して年1回以上の研修会を実施している。	保健安全部	緊急時対応マニュアルを早々に全職員に周知し、学習活動を行う場所全ての見やすい場所にチャート図を示す。	a(47.1%) b(52.9%)	/	達成度B:コロナ禍で教員への周知や研修の機会が少なくなっていたので、説明する機会を設けていく。	a(63.2%) b(36.8%)	/	達成度A:年間4度の避難訓練について、実際に想定しながらPDCAサイクルで改善・実施できた。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	95%以上の職員が、災害時の対応マニュアルをわかり易いと答え、訓練等で活用している。	保健安全部	本校の災害等の対応マニュアルを、統一された図式に変え、全職員に配付し、学級内等に掲示する。	a(44.4%) b(55.6%)	/	達成度B:全ての教室等に最新版のマニュアルなどが保管又は掲示されているかを担当が確認する。	a(42.1%) b(57.9%)	/	達成度B:マニュアル自体はできているが、配布や更新が足りていないところがあるので改善する。
		小学部から中学部、そして高等部へと一貫した指導計画を立案し、内容を100%の教員が説明できる。	移行支援部 教務部 各学級	農園芸の作業学習充実を柱に、小学部から中学部、高等部まで段階的に農園芸に関わる学習活動を採用した計画を立案、実施する。	a(36.1%) b(55.6%)	/	達成度B:各学級で農園芸に係る活動ができているが、一貫性やつながりを持てるように改善する。	a(42.1%) b(50.0%)	/	達成度B:徐々に指導計画の中に農園芸が取り入れられるようになってきているので継続していく。
	キャリア教育全体計画の内容を直接的に取り扱う授業を、各学級やHR等で学期に1度は実施している。	移行支援部 各学級	全ての授業においてキャリア教育の視点をういて授業改善するとともに、キャリアを直接的に意識した授業も必ず行う。	a(19.4%) b(75.0%)	/	達成度B:キャリア教育について自信の無い教諭が多いので、普段の指導につながる研修を行う。	a(21.1%) b(73.7%)	/	達成度B:教師の中でキャリア教育に関する理解や実践が充実してきているので継続して周知等する。	
9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	社会への移行について早期から本人及び保護者と協議し、意義や内容に95%の保護者が満足している。	移行支援部 各学級	保護者と直接話す機会において移行を話題にあげ、卒業後の姿に向け共通の理解及び指導方法で学習を進めていく。	/	a(63.0%) b(34.2%)	達成度A:保護者は移行の話ができていないと感じているので、教諭が一貫性を持てるようにする。	/	a(56.5%) b(38.7%)	達成度A:移行に高卒時という印象が強いので、3～4年後の未来を見据えて考慮できるようにしていく。
		全児童生徒について個に応じた具体的な移行時の姿をもとに指導内容を導き、個別の計画に表している。	各学級 教務部	個別の教育支援計画等に、その子の目指す卒業後の具体的な姿を示し、各学期のはじめに中長期的な視点でも評価し、指導を改善する。	a(25.0%) b(52.8%)	/	達成度B:早い時期に移行を話題にするのは難しいので、徐々に見通しが持てるように教諭が説明する。	a(15.8%) b(73.7%)	/	達成度B:計画に内容が十分に記してあるが教師が自信を持っていないので、研修等対応していきたい。

※ 点検・評価の値については、アンケートにおいてa(とてもそう思う)、b(ややそう思う)と答えた割合です。達成度については、aがbと同じか上回ったらA(問題なし)、aがbを下回ったらB(改善の必要あり)としています。